

にしだ昭二 県政通信



新年号
No.16



平成26年12月県議会 予算委員会での西田昭二県議



新年明けましておめでとうございます。
石川県議会議員の西田昭二です。
昨年の12月には、突然の衆議院の解散総選挙において結果的には自民党の圧勝に終わった選挙でありましたが、今年は、アベノミクスの経済政策が3年目にあたり本当の意味で結果を残せるかが、大きな課題だと思っておりますし地方再生を旗頭に地域の生き残りをかけた本当の戦いが始まろうとしております。いよいよ北陸新幹線の開業や能越道自動車道の開通によって能登地域に対する誘客促進が期待をされる訳であります。干支の未の文字の様に「未来」につながるよう全力で応援して参る所存でありますので、今後とも皆様方の暖かいご支援ご協力をお願い申し上げます。



地元出身 輝関を激励

石川県議会議員西田昭二(2期 45歳)

県議会での主な略歴

H26年 県議会 環境農林建設委員会 委員長
H25年 // 商工労働公安委員会 委員長
// 政策調査会検討委員会座長
H24年 // 環境農林建設常任委員会 委員長
H23年 // 厚生文教常任委員会 委員長

～にしだ昭二事務所～

〒926-0173 七尾市石崎町ソ部5

TEL & FAX 0767-62-2525

メールアドレス nanaopolicy@yahoo.co.jp

プロフィール

- ・1969年七尾市石崎町生まれ
 - ・七尾商業高校、愛知学院大学商学部卒
 - ・卒業後、地元七尾出身瓦力代議士の秘書として10年間経験
 - ・2001年10月七尾市議会議員選挙にて32歳で初当選(通算3期)
 - ・2007年4月石川県議会議員選挙にて37歳で初当選(現在2期目)
 - ・自由民主党石川県支部連合会 青年局長・政務調査会長代理を歴任
 - ・教員免許取得 ・相撲4段
- 【家族構成】妻・二女(中1、小5)

初心を忘れることなく！ 9月議会一般質問・12月議会予算委員会質問

県議会初当選から12月議会で**31回目**の県議会定例会が行われ、これまで初回からずっと一般質問や委員会での質問を続けています。細かな質問もありましたが『地元七尾を大切に』との思いであり県議会議員として県との『つなぎ役』に徹する思いは今も変わりません。以下は、9月議会、12月議会における私の質問と執行部の答弁の趣旨です。

北陸新幹線金沢開業に伴う能登の二次交通について【平成26年 9月議会にて】

《質問趣旨》 のと鉄道とJR両方の観光列車を乗り継ぐツアーやのと鉄道区間へのJRの観光列車の乗り入れなど活用方法の工夫が必要だと思うがどうか。



新幹線金沢駅待合室(石川県提供)



H26.6.16.北國新聞

《知事答弁》 二次交通について先般、JR西日本から七尾線に観光列車を導入するという表明を戴いた。この列車は、「和と美」をコンセプトに来年10月運行が開始される。また、七尾線は二つの観光列車が楽しめる非常に魅力的な路線。相乗効果を最大限に発揮させていくことが大切である。JR観光列車はディーゼル列車であるため、例えばイベント列車など臨時列車として、穴水まで運行することも有効な活用策だと考えており、今後JR西日本に対し働きかけていきたいと考えている。

国道249号藤橋バイパスについて【平成26年 9月議会にて】

《質問要旨》 七尾氷見道路が完成し、東海北陸自動車道と直結すれば藤橋バイパスを利用し能登へ訪れる方が増えると思うが藤橋バイパスの役割と供用開始時期について聞く。



藤橋バイパス石川県資料より

《知事答弁》 全線無料化したのと里山海道や能越自動車道と一体となって広域交流の拡大を図るとともに緊急輸送道路として地域住民の安全・安心の確保に欠かせない重要幹線道路である。七尾国分町から小島町間の1.7kmの整備を精力的に進めてきた結果、来春予定していた供用開始時期を3ヶ月前倒して年内には完成できる目処がついた。藤橋バイパスの全線開通により能登地域の救急医療の要である公立能登総合病院へのアクセスの向上、能越自動車道七尾氷見道路と田鶴浜道路、のと里山海道を結ぶアクセス向上により能登地域全体の発展に大きく寄与するものだと考えている

【平成26年 9月議会】その他の一般質問

- ◎能登の観光振興
- ◎七尾の製氷施設対策
- ◎いしかわ百万石物語・江戸本店のオープン
- ◎グリーンニューディール事業
- ◎災害復旧に備えた国土交通省や市町の連携

【平成26年12月議会】その他の予算委員会質問

- ◎石川の女性の活躍について
- ◎モノづくり企業に於ける女性の活躍について
- ◎女性警察官の活躍について

農村の活性化に向けた圃場整備の推進について【平成26年9月議会にて】

《質問要旨》 新たな圃場整備の要望がある中、平成27年度予算の確保に向け、県はどのように取り組んでいくのか。また、県道・市道の拡幅改良などの連携についてはどうか。



白浜・深見地区圃場整備

《堀畑農林水産部長答弁》 実施中の地区に加え、地域の合意形成が整い、事業化段階にきている新規地区についても必要な予算額を確保していきたい。

次に、県道市道の拡幅改良などの連携については、圃場整備事業を実施する区域内に道路や河川がある場合は、一体的に用地を捻出することは可能である。地域の利便性を念頭に置きながら必要に応じ、道路管理者と協議し、道路網等の整備との連携にも取り組んでまいりたい。

誘客活動に於ける女性の活躍について【平成26年12月予算委員会にて】

《質問要旨①》 七尾市の一本杉通りの女性有志による花嫁のれんを活用した誘客の取り組みをどのように評価するか。

《知事答弁》 今年で11回目になる一本杉通りの花嫁のれん展は、平成17年から毎年ご案内いただいて視察をおこなっている。年を重ねるごとに、このイベントが高い評価を戴いていることを実感しており、商店街の各所に『語り部処』を設ける等、住民と観光客が触れ合える取組を地域一体となって進められ、現在では全国から多くの観光客が訪れ、地域活性化の成功事例として高い評価をされていると承知している。この花嫁のれんを地域おこしの核にしたことは、まさに女性ならではの視点であると感心しており、ドラマの素材や観光列車の名称としても採用が決まり、広がりが生れたことは大変喜ばしいことだと思っている。



北國新聞記事

《質問要旨②》 オピニオンリーダーの口コミによる誘客効果は絶大であり、来年、金沢で開催される全国商工会議所女性会連合会全国大会を成功させ、参加者に満足して帰っていただくことは、観光誘客にプラスになると思うがどうか。

《普赤観戦略光推進部長答弁》 県としては開催に向け大会事務局と相談協力をしながら準備を進めている。具体的には本県の観光魅力を盛り込んだ大会パンフレットの作成し、県の観光パンフレットとともに会員に事前配布し、大会への機運醸成や県内各地の誘客に努めているところである。大会参加に良い印象を持っていただくためには、おもてなしの心を持って温かくお迎えし、本県の魅力を十分堪能していただくことが重要。今後ともコンベンションビューローと一体となり誘客促進に努めてまいりたい。

県内遊説時の西田昭二県議



《質問要旨》地域に担い手として期待されるのは専門高校の卒業生であり、専門教育の充実は重要であるが、その取組みを聞く。

《木下教育長答弁》地域を活性化を図るための専門教育は重要。専門教育の充実については、実践に向けて優れた取組みを支援する。未来の職業人育成プロジェクト事業を昨年度から立ち上げたところである。企画力やチャレンジ精神を持って地域社会の活性化に主体的に寄与できる人材を育成していきたいと考えている。経済社会のグローバル化に伴い、専門高校における職業英会話育成事業を昨年度からスタートさせている。また農業、工業、商業の分野では、H22年から長期型企業実習を実施。産業界との連携した取組みも予定している。今年度から国の採択を受け工業分野では県立工業高校が、商業分野では金沢商業高校が社会の第一線で活躍できる高度な技能を有した人材の育成に向けての取組みを実施しているところであり、今後、その成果を受け他校にも波及させたいと考えている。



七尾東雲高校要綱より

女性を立てたのは

○：西田氏は30分間全て女性をテーマに質問した。「おもてなしには女性の感性やアイデアが有効」と、地元七尾市の花嫁のれんイベントを絡めて誘客策を尋ね、女性がものづくり企業で活躍できるよう支援策を求めた。さらに、若い女性の地元就職の支援を促し、最後は女性警察官の活用まで話題に。「私も知事も議員の皆さんも、女性の協力や支援のおかげで議場に立てる」と強調する姿に、県議選を控えて女性票を意識しているとのやばな見方も。

H26.12.13北國新聞

記者席

藤橋バイパス供用いつ

西田昭二氏

(自民)

〈国道249号〉藤橋バイパスの供用開始時期を聞く。

谷本知事 七尾市国分町から小島町までの二期工事区間1.7キロを3カ月前倒しして完成させ、バイパスが年内に供用できるめどがついた。地域の緊急輸送道路としても重要になる。



〈製氷施設対策〉県漁協七尾地区の製氷機1台が故障しているが、今後の整備計画を示す。

知事 前倒しで年内工事完了

堀畑農林水産部長 6月に故障した県漁協天田新支所の製氷機は修理し、来年2月には稼働できる見通しになっている。

「まれ」推進協議会、県の積極的な支援が必要だ。谷本知事 大きな発信力を持つ番組で能登、石川県を全国にアピールする絶好の機会。能登が一体となって取り組む協議会の活動をしっかりと支援する。

新聞記事あれこれ

H26.9.18北國新聞

先輩の姿に力?

○：西田氏は質問に入る前、代表質問で金沢、白山両市長選に出馬する同期にエールを送った。山田省悟氏に「感銘を受けた。会派に同期がない私にはつらやましい」と一言。この日は県議会での30回目の登壇で、傍聴席には地元の前市長らの姿も。「いばらの道を歩む先輩方の後ろ姿を見て責任の重さを実感している」と決意を新たにした後、交通対策や観光振興など、初回から心がけているという能登を振り返る。最後は早口で何とか時間内に終え、「人口減少対策と経済対策で県の前向きな姿勢を確認できた」と振り返った。

記者席

少対策と経済対策で県の前向きな姿勢を確認できた」と振り返った。首長選に挑む先輩たちに触発されたのか、西田、井出氏ともいつも以上に質問の声は力強く、納得できる回答を引き出せて質問後の表情は明るく。(竹)

H26.9.18北陸中日新聞

アンテナショップ

商品業者20社内定 十月八日に東京・銀座で移転開業する県のアンテナショップ「いしかわ百万石物語・江戸本店」について、田中新太郎商工労働部長は、取扱商品の事業者選定にあたり、現時点で二百社余りが内定していることを明らかにした。

ただ、商品はオープン時に固定せず、来訪者の評価やニーズを踏まえた上で、適時入れ替えなども行う方針。田中部長は「継続的、効果的に魅力を発信していくよう運営事業者らとも連携を図り、工夫を凝らしたい」と述べた。

県ではオープンに向け、最寄り駅の銀座一丁目駅を通る地下鉄全車両で中つり広告を掲載するほか、都内で十八万部発行される女性会社員向けのフリーペーパーでもPR。運営事業者のシタックス大新東ヒューマンサービス(東京都渋谷区)もグループ会社を通じ首都圏を中心としたレストランでのPR、七百五十万人の携帯会員にメール配信するという。